

提訴にあたって

2016年11月30日
平 和 子

本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

今回の訴訟は私どもの個人の提訴という形ではありますが、自衛隊のPKO派遣という問題は私個人のみならず、日本全国の自衛隊家族、ひいては日本全体の問題として認識しております。自衛隊の本来任務であります「国土の防衛」という事から大きく逸脱した今回の法律改正・閣議決定に対し、一母親の立場から疑義を唱えるべく行動を起こすことに致しました。

皆様に広くお知らせしたいのは、ニュース報道で流れている内容よりも、実際の現地の状況は格段に危機的な状況であるという点です。「見切り発車」のような形で派遣された隊員の国際的な立場があやふやで何か有った時の対応が何も決まっていないのです。本当に知れば知るほど呆れるようなコトばかりです。例えば交戦に巻き込まれて負傷した場合の止血帯や消毒液などの救急装備品も、米軍はひとりひとりに30品目持たされているのに対し、自衛隊はほんの3～4種類でほぼ丸腰、現役の自衛官でも他国の軍用犬以下という実態です。捕りよになっても国際法の対象外のため、まともな保護も受けられないばかりか相手国の法律で裁かれても抗議も通用しません。最悪、現地の方を殺傷してしまった場合、組織の命令に従っただけなのに、帰国後は隊員個人の責任を追及され刑事罰が下されるおそれがあるなんて、こんな理不尽極まりない状況が私たち家族はおろか、行かされる隊員本人にもほとんど知らされないのです。

この様な事を強行に決めた方々は、何も損害が及ばないし、いざ何か有ったところで私たち国民の血税が動くだけで私たちだけが一方的に甚大な被害・損害を被ります。

国連の関係者でさえ「先進各国は、内戦の激化にともない、いち早く撤収した。現在、主要国で残っているのは日本の自衛隊だけだ。あの様な危ない状況に自分の国の人間をさらに追加増員するなど、政治家個人の自分たちの実績作りにしてもあまりに酷い・・・」と国際社会からは尊敬されるどころか軽べつさえされている有様です。

私は普通の母親なら自分の息子が危ない状況に立たされた時、誰もが持つであろう気持、その一点で行動しています。個人差はあるでしょうが、それはどこの国であろうといつの時代の母親であろうと同じだと思います。先の大戦で苦勞して育て上げた息子さんを亡くされたお母様方の無念さを思います。

私は今の母親として言うべきことははっきりと申し上げてあの世に行きたいと考えています。

普通の社会は戦争しない社会であり、普通に戦争をする国が異常です。この重大な人権侵害に対し、私と同じように声を上げる方々が増えてくれることを願います。

弁護士の皆様に支えて頂き結果を出せたらと思います。